

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年1月29日

上場会社名 株式会社 WOWOW

上場取引所 東

コード番号 4839 URL <http://www.wowow.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 和崎 信哉

問合せ先責任者 (役職名) IR経理局長

(氏名) 大熊 和彦

TEL 03-4330-8097

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	48,930	△2.1	5,358	33.5	5,598	28.2	3,970	34.6
21年3月期第3四半期	49,983	—	4,013	—	4,367	—	2,949	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	27,532.28	—
21年3月期第3四半期	20,452.64	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	43,858	23,044	52.2	158,629.64
21年3月期	39,632	19,363	48.4	133,087.45

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 22,877百万円 21年3月期 19,194百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	3,000.00	3,000.00
22年3月期	—	0.00	—		
22年3月期 (予想)				3,000.00	3,000.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	65,700	△1.8	5,200	29.4	5,100	17.3	3,300	8.1	22,881.39

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他 をご覧下さい。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 144,222株 21年3月期 144,222株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 0株 21年3月期 0株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 144,222株 21年3月期第3四半期 144,222株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成21年9月25日発表の連結業績予想を修正していません。本資料に記載の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。なお、上記業績予想のご利用にあたっては、5ページをご参照ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期（4月～12月）におけるわが国経済は、輸出の持ち直しや政府の経済対策の効果で企業の景況感は緩やかな回復傾向にあるものの、雇用情勢の悪化やデフレなどにより、先行き不透明な状況が続いております。放送業界におきましては、広告市況は2008年秋以降の景気後退により企業業績が悪化する中で、依然として厳しい状況にあります。

このような環境下、当第3四半期連結累計期間における収支の状況は、テレマーケティング関連における受注の減少等に伴うその他収入の減少等により、売上高は489億30百万円と前年同期に比べ10億52百万円（2.1%）の減収となりました。しかし、当第3四半期（4月～12月）は前年同期にあった「UEFA EURO2008TM サッカー欧州選手権」等のビッグイベントが無かったことにより番組費及び広告宣伝費等が減少し、営業利益は、53億58百万円と前年同期に比べ13億44百万円（33.5%）の増益となり、また、経常利益は、55億98百万円と前年同期に比べ12億31百万円

（28.2%）の増益となりました。四半期純利益は、法人税等16億7百万円等を計上しましたが、39億70百万円と前年同期に比べ10億21百万円（34.6%）の増益となりました。

各部門の営業状況は次の通りであります。

(1) 有料放送

当第3四半期（4月～12月）は、2011年の放送の完全デジタル化以降もNo. 1プレミアム・ペイチャンネルの地位を確固たるものにするため、話題性のある質の高い番組をラインナップし、オリジナルコンテンツの強化を行いました。

その結果、特に12月は、「独占生中継！Mr.Children DOME TOUR 2009 ～SUPERMARKET FANTASY～」、「マイケル・ジャクソン HIStoryツアー・イン・ミュンヘン1997」、メガヒット映画50時間一挙放送などの強力なコンテンツとあわせて、8月に制度化したデジタルWOWOWの新規加入の方を対象に初回視聴料を900円（税抜き）とする「スタート割」を訴求したことなどにより、12月単月の新規加入件数は歴代2位の数字を記録しました。そして、正味加入件数はデジタル放送開始後の過去最高の数字となりました。

オリジナルドラマ製作プロジェクト「ドラマW」では、連続ドラマW「空飛ぶタイヤ」、「ママは昔パパだった」、「隠蔽指令」のほか、ドラマWを6本放送しました。なお、「空飛ぶタイヤ」は日本民間放送連盟賞番組部門テレビドラマ番組で最優秀やATP賞テレビグランプリ2009でグランプリを受賞するなど高い評価を得ております。ドキュメンタリー番組では、10月より「ノンフィクションW」として、より幅広いテーマを取り上げ、大人の知的好奇心を刺激するオリジナル・ノンフィクション・エンターテインメントを放送しています。

また、日頃からWOWOWを支えてくださっている加入者の方に対して感謝の気持ちを表すことと、未加入者の方にWOWOWの魅力に触れていただくことを目的として、開局以来最大のイベント「WOW FES！」を10月に渋谷エリア一帯で開催しました。会場からの生中継を中心に12時間の無料放送を実施し、ボクシングのダブル世界タイトルマッチや総勢22名のアーティストの一夜限りの豪華ライブなどを行い、好評を得ました。

営業施策としては、8月に「スタート割」を制度化、同時にアナログのお客様がデジタルに移行した場合に2ヶ月間無料でWOWOWをご覧いただけるようにデジタル移行特典を変更しました。そして、7月、12月には「無料放送の日」を有力コンテンツと連動して展開し、新規加入獲得に大きな成果を得ました。

また、解約抑制の取り組みとして、「プラスW」という加入者にご案内するサービスを通じて、WOWOWのエンターテインメントをより深く楽しんでいただく取り組みを行っております。当第3四半期（4月～12月）は、WOWOW FILMS最新作「パレード」のクリスマスプレミアム試写会へのご招待や、海外ドラマ「CSI:ニューヨーク5」のアフレコを体験していただくなど満足度向上に努めました。

以上の結果、当第3四半期（4月～12月）の新規加入件数等は以下の通りとなりました。平成20（2008）年4月1日から制度化したデジタルダブル契約（注1）は、当第3四半期末時点において179,615件（前年同期に比べ70,991件の増加）となっております。

契約種別	新規加入件数	解約件数	正味加入件数	デジタル移行件数	累計正味加入件数
アナログ (対前年同期増減率)	65,124 (△39.3%)	146,168 (△21.1%)	△81,044 (－)	△107,233 (－)	552,957 (△32.5%)
デジタル (対前年同期増減率)	504,179 (25.3%)	375,602 (44.2%)	128,577 (△9.3%)	107,233 (12.2%)	1,970,553 (17.1%)
合計 (対前年同期増減率)	569,303 (11.7%)	521,770 (17.0%)	47,533 (△25.5%)	－	2,523,510 (0.9%)

(2) その他

映画製作では、劇場用映画レーベル「WOWOW FILMS」最新作「パレード」が平成22（2010）年2月に全国劇場公開となることに続き、「武士道シックスティーン」がゴールデンウィークに公開となります。WOWOW FILMS製作参加作品では、「ウルトラミラクルラブストーリー」、「キラール・ヴァージンロード」を公開しました。

テレマーケティング関連では、テレマーケティング業務受託、各種コンタクトセンター受託運営を行っている連結子会社の株式会社WOWOWコミュニケーションズが、業務の見直しによる効率化を進めるとともに、人材の育成、サービス・品質の維持向上を行っております。しかしながら、景気後退の影響により、請負業務の受注が前年同期に比べ減少しております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、438億58百万円となり、前連結会計年度末に比べ42億25百万円の増加となりました。主な要因は、流動資産で、番組勘定等が増加したことによるものであります。

負債は、208億14百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億44百万円の増加となりました。主な要因は、短期借入金及び前受収益等は減少しましたが、買掛金が増加したことによるものであります。

純資産は、230億44百万円となり、前連結会計年度末に比べ36億81百万円の増加となりました。主な要因は、四半期純利益の計上等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ3.8ポイント上昇し、52.2%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べ5億54百万円増加し、69億17百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における営業活動の結果得られた資金は32億90百万円（前年同期は17億96百万円の獲得）となりました。主なプラス要因は、税金等調整前四半期純利益55億97百万円の計上及び仕入債務の増加額29億83百万円等であり、主なマイナス要因は、前受収益の減少額11億9百万円、たな卸資産の増加額29億35百万円及び法人税等の支払額19億47百万円等であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における投資活動の結果使用した資金は12億50百万円（前年同期は28億24百万円の使用）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出9億38百万円及び無形固定資産取得による支出2億79百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における財務活動の結果使用した資金は14億35百万円（前年同期は4億7百万円の使用）となりました。主な要因は、短期借入金の純減額8億10百万円及び配当金の支払額4億32百万円等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22（2010）年3月期の連結業績見通しにつきましては、売上高657億円（前期比1.8%減）、営業利益52億円（同29.4%増）、経常利益51億円（同17.3%増）、当期純利益33億円（同8.1%増）を見込んでおります。また、累計正味加入件数は1万件の増加（内、デジタルダブル契約3万件）、期末累計正味加入件数は248万6千件（前期比0.4%増、内デジタルダブル契約15万件）を見込んでおります。

4年連続正味加入件数純増に向け、1月以降は「第52回グラミー賞授賞式」、「第82回アカデミー賞授賞式」を独占生中継でお届けするほか、英国BBC制作の世界最高峰のネイチャー・ドキュメンタリーシリーズ「BBC EARTH 2010」もスタートするなど、話題性のある上質なコンテンツの充実を図ってまいります。

そして、平成22（2010）年6月より開始予定のスカパー！HDでのデジタルWOWOWの放送や、IPTV（注2）など新しい伝送路でのサービス展開に向けて準備を進めてまいります。さらに、平成23（2011）年10月1日からのフルタイム・フルハイビジョンによる3チャンネル放送開始に向けて、より一層コンテンツを強化してまいります。

（注1）デジタルダブル契約は、「同一契約者による2つ目のデジタル契約」のことで、割引料金を適用（月額2,300円の視聴料金を900円に割引）*金額は税抜き

（注2）IPTVとは「Internet Protocol Television」の略で、インターネットプロトコルを利用して、テレビ受像機にテレビ放送や映像コンテンツの配信を行うサービスです。通信速度を保障する機能があるネットワークでは、特定のユーザーに通常の放送と同等の品質を保証したサービスを提供することができます。

4. その他

（1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

（2）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①簡便な会計処理

（法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法）

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

また、繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境及び一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

（3）四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,917	6,363
売掛金	2,962	2,603
番組勘定	13,261	10,311
貯蔵品	57	71
その他	1,531	1,086
貸倒引当金	△84	△82
流動資産合計	24,646	20,353
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,846	1,871
機械及び装置（純額）	2,090	2,419
その他（純額）	754	816
有形固定資産合計	4,691	5,106
無形固定資産		
借地権	5,011	5,011
のれん	69	84
その他	2,434	2,256
無形固定資産合計	7,515	7,352
投資その他の資産		
投資有価証券	5,680	5,436
その他	1,410	2,118
貸倒引当金	△84	△735
投資その他の資産合計	7,006	6,820
固定資産合計	19,212	19,279
資産合計	43,858	39,632

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	11,514	8,498
短期借入金	—	810
未払法人税等	929	1,306
前受収益	2,330	3,472
賞与引当金	45	119
その他	4,647	4,703
流動負債合計	19,468	18,910
固定負債		
退職給付引当金	1,030	993
その他	314	366
固定負債合計	1,345	1,359
負債合計	20,814	20,269
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	2,738	2,738
利益剰余金	15,354	11,816
株主資本合計	23,092	19,554
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3	△140
繰延ヘッジ損益	△218	△220
評価・換算差額等合計	△215	△360
少数株主持分	166	168
純資産合計	23,044	19,363
負債純資産合計	43,858	39,632

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	49,983	48,930
売上原価	27,073	24,486
売上総利益	22,910	24,444
販売費及び一般管理費	18,896	19,086
営業利益	4,013	5,358
営業外収益		
受取利息	23	3
持分法による投資利益	146	156
為替差益	177	52
その他	21	44
営業外収益合計	368	256
営業外費用		
支払利息	9	4
その他	6	11
営業外費用合計	15	16
経常利益	4,367	5,598
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	64
特別利益合計	—	64
特別損失		
固定資産除却損	40	3
投資有価証券評価損	47	57
ゴルフ会員権評価損	—	4
本社移転費用引当金繰入額	29	—
特別損失合計	117	65
税金等調整前四半期純利益	4,249	5,597
法人税、住民税及び事業税	1,223	1,587
法人税等調整額	43	19
法人税等合計	1,267	1,607
少数株主利益	32	19
四半期純利益	2,949	3,970

(第3四半期連結会計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	16,621	16,341
売上原価	8,165	8,604
売上総利益	8,456	7,737
販売費及び一般管理費	6,447	6,877
営業利益	2,009	859
営業外収益		
受取利息	6	0
持分法による投資利益	38	59
為替差益	66	138
その他	5	13
営業外収益合計	117	211
営業外費用		
支払利息	4	—
その他	2	1
営業外費用合計	6	1
経常利益	2,120	1,069
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	4
特別利益合計	—	4
特別損失		
固定資産除却損	37	1
投資有価証券評価損	—	0
特別損失合計	37	1
税金等調整前四半期純利益	2,083	1,072
法人税、住民税及び事業税	323	325
法人税等調整額	13	△22
法人税等合計	337	303
少数株主利益	11	7
四半期純利益	1,734	762

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,249	5,597
減価償却費	1,279	1,441
のれん償却額	15	15
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	23	△649
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△70	△73
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	43	37
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△165	—
本社移転費用引当金の増減額 (△は減少)	△24	—
受取利息及び受取配当金	△34	△23
支払利息	9	4
為替差損益 (△は益)	△74	49
持分法による投資損益 (△は益)	△146	△156
固定資産除却損	40	3
投資有価証券評価損益 (△は益)	47	57
ゴルフ会員権評価損	—	4
売上債権の増減額 (△は増加)	△274	△360
前受収益の増減額 (△は減少)	△1,511	△1,109
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,698	△2,935
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,625	2,983
未払消費税等の増減額 (△は減少)	194	20
その他の資産の増減額 (△は増加)	△153	228
その他の負債の増減額 (△は減少)	△71	81
小計	2,450	5,219
利息及び配当金の受取額	34	23
利息の支払額	△9	△4
法人税等の支払額	△679	△1,947
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,796	3,290
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△862	△938
無形固定資産の取得による支出	△1,260	△279
投資有価証券の取得による支出	△15	—
敷金及び保証金の差入による支出	△671	△43
その他	△14	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,824	△1,250

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	450	△810
割賦代金の支払による支出	△242	△84
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△164	△86
配当金の支払額	△432	△432
少数株主への配当金の支払額	△17	△22
財務活動によるキャッシュ・フロー	△407	△1,435
現金及び現金同等物に係る換算差額	74	△49
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,360	554
現金及び現金同等物の期首残高	7,329	6,363
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,968	6,917

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

放送事業に関するサービスを行う単一事業のため、当第3四半期連結累計期間における事業の種類別セグメント情報は記載しておりません。

[所在地別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間において、本国（日本）以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため記載しておりません。

[海外売上高]

当第3四半期連結累計期間において、海外売上高がないため記載しておりません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

該当事項はありません。